

女人講の石仏 -如意輪観音から子安さまへ-



成田市 北須賀 白旗神社

左は天明8年(1788)の如意輪観音十九夜塔 右は天明2年(1782)の子安像塔

宝暦4年(1754) 成田市船形薬師寺

I 如意輪観音像石塔の興隆と衰退

(1) 江戸期の如意輪観音像の石仏

1. 墓標仏＝女性の故人の供養塔、如意輪観音像としては、数的には最多か？



八千代市麦丸墓地
「静感院覺峯妙契信女／
享和十一丙午天(1726)
／八月廿九日／施主(弥〇〇)」



八千代市下高野墓地
安永 5年(1776)「信女」銘



八千代市下高野墓地
文化 9年(1812)「童女」銘

(1)江戸期の如意輪観音像の石仏

2. 月待の女人講供養塔＝念仏塔・十九夜講の主尊

講銘がなく、仏像供養塔と分類されているもの、も女人講関連か？

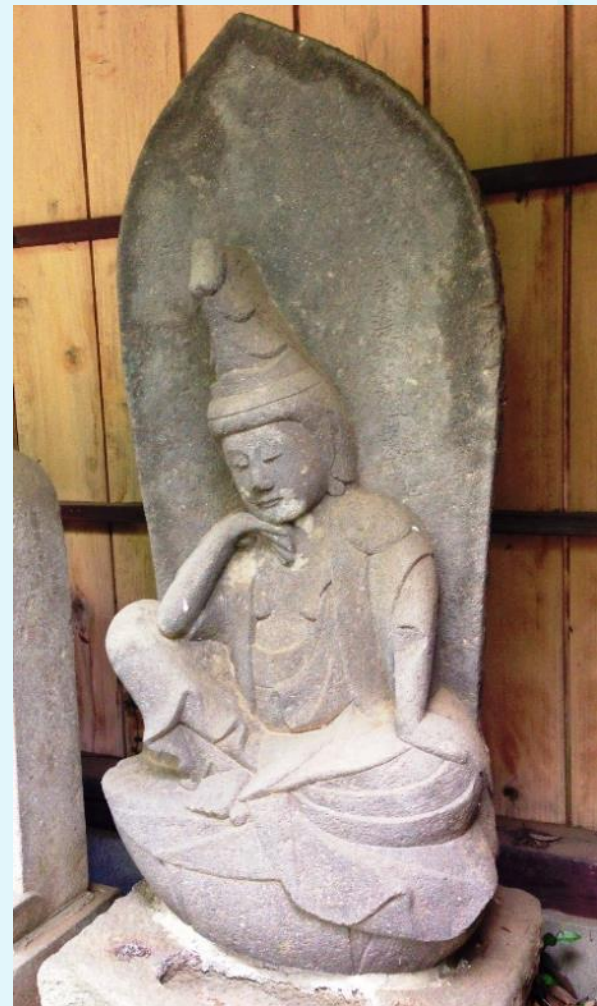
二臂・六臂像が前～中期に最盛期。



印西市笠神青年館
寛文9年(1669)
「笠神之郷同道四十三人」銘



佐倉市小竹西福寺
延宝3年(1675)
「講人数四十二人…」



佐倉市下志津報恩寺の念仏塔
貞享2年(1685)

⇒十九夜講の主尊については後述

(1)江戸期の如意輪観音像の石仏

2. 月待の女人講供養塔＝念仏塔・十九夜講の主尊



佐倉市土浮正福寺の時念仏・十九夜塔
元禄4年(1691)
「奉新造立時念仏并拾九夜供養…」



佐倉市生谷梵天塚脇の念仏塔
元禄16年(1703)
「奉造立聖如意輪観世音／尊像惣(村)／
為女念仏講菩提也…」

(1)江戸期の如意輪観音像の石仏

3.西国三十三観音などの観音霊場本尊の写し



西国一番札所写し
酒々井町大仏頂寺



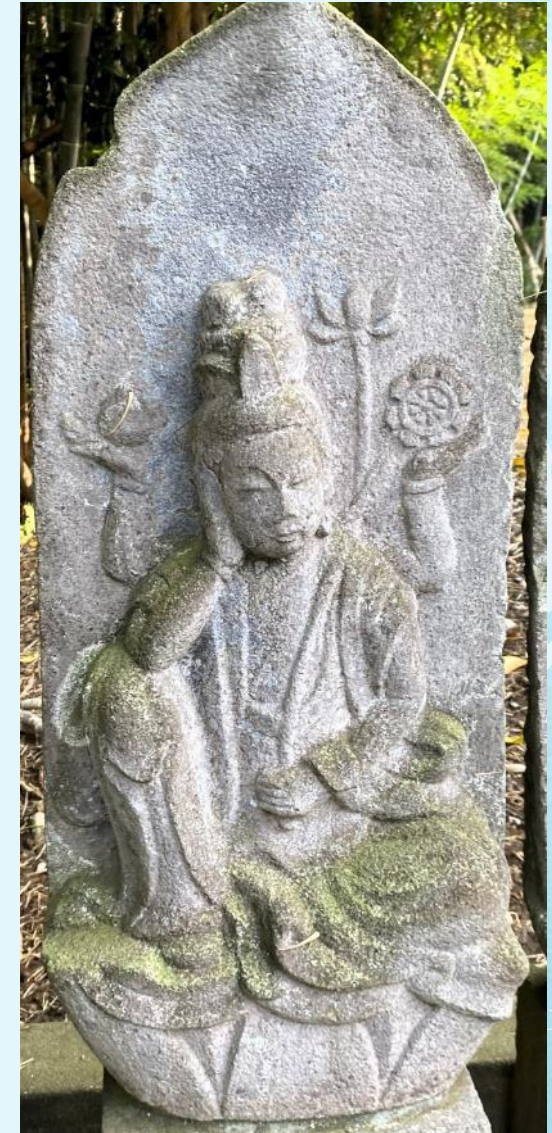
西国七番札所写し
明和4年(1767)
香取市田部西雲寺



西国二十七番札所写し
銚子市賢徳寺

(1)江戸期の如意輪観音像の石仏

4.六観音の如意輪観音



八千代市吉橋貞福寺の六観音像塔
台石戒名の故人没年は、
元文5年(1740)～宝暦7年(1757)

(1)江戸期の如意輪観音像の石仏

4.六観音の如意輪観音



六観音石幢
船橋市不動院 元禄14年(1701)



六観音石灯籠
印西市龍腹寺 宝永4年(1707)



(2) 初期の如意輪観音像の十九夜塔の像容と特徴

十九夜塔の主尊＝如意輪観音

旧暦19日の夜、女性が寺や当番の家に集まって、講を開き、如意輪観音の前で経文、真言や和讃を唱える行事を「**十九夜講**」と呼び、関東北東部で盛んに行われていました。

十九夜講が、祈願の信仰対象あるいは成就のあかしとして建立する石塔が「**十九夜塔**」で、主に、右手を右ほほに当て首をかしげ、右ひざを立てて座る姿の**如意輪観音像が主尊**として彫刻されています。

千葉県での十九夜塔の始まり

千葉県で一番古い十九夜塔は、香取市石納の結佐大明神境内の石塔で中段に「キリーク」の梵字と台石に「承応元年(1652)壬辰年／十九夜侍之供養／十二月十九日」の銘があります。

「十九夜念仏供養 二世安楽」などの銘文と、如意輪観音像を刻んだ典型的な十九夜塔が盛んに建てられるようになるのは、千葉県内では万治3年(1660)山武市戸田の金剛勝寺の十九夜塔からです。

なお、千葉県内のその頃の像容は、二臂より六臂の如意輪観音像が多く、またまれに聖観音像や地藏像の十九夜塔も見られます。



十九夜塔とは

旧暦19日の夜、女性が寺や当番の家に集まって、講を開き、如意輪観音の前で経文、真言や和讃を唱える行事を「**十九夜講**」と呼び、関東北東部で盛んに行われていたようです。

十九夜講が、祈願の信仰対象あるいは成就のあかしとして建立する石塔が「**十九夜塔**」で、主に、右手を右ほほに当て首をかしげ、右ひざを立てて座る姿の**如意輪観音像が主尊**として彫刻されています。



「十九夜念仏供養 二世安楽」などの銘文と、如意輪観音浮彫像を刻んだ典型的な十九夜塔が盛んに建てられるようになるのは、千葉県内では、**寛文5年(1665)印西市(小倉青年館)**からです。

なお、千葉県内のその頃の像容は、二臂より六臂の如意輪観音像が多く、またまれに聖観音像や地蔵像の十九夜塔も見られます。

寛文5年(1665)
印西市小倉青年館

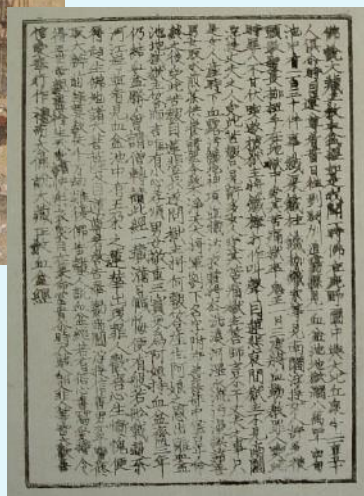


寛文10年(1670)
白井市延命寺

十九夜塔の主尊は なぜ如意輪観音なのか



「熊野観心十界図」六道珍皇寺所蔵



血盆経(富山県立山博物館所蔵)



立山曼荼羅 吉祥坊本(血の池地獄)〔個人所蔵〕

「十九夜念仏和讃」＝毎月十九日に集まって、十九夜念仏を唱えれば、血の池地獄に堕ちた女人を如意輪観音が救済してくださる

「血の池地獄」＝「血盆経」という室町時代に中国で成立・伝来した差別的な偽經に出てくる地獄

月経とお産で流す血の穢れから女性が逃れられない恐ろしい死後の世界

「如意輪観音＝血の池地獄の救済者」

何故血盆経信仰と結びついたのかは、中国における問題であり、その理由は定かではない。

京都六角堂(『聖徳太子＝如意輪観音』化身説)⇒「血の池観音図」⇒16世紀後半の岡崎満性寺に伝来

熊野比丘尼の「観心十界図」(血の池・不産女地獄)絵解き＝血盆経信仰を勧め、血盆経を頒布した

熊野は女性の不浄”を厭わぬ聖地

⇒熊野比丘尼により女性達がより積極的に血盆経信仰を受け入れる道を拓く

⇒宗派内を越え、如意輪観音が絵画を通して広く各地に定着

血盆経護符の携帯＝不浄を他に及ぼさず、死後の成仏を約束⇒安産のお守り⇒関東では正泉寺が喧伝

高達奈緒美「血盆経信仰の諸相」から

十九夜塔の分布

十九夜塔の分布

千葉県北部、茨城、栃木、埼玉、福島県の一部に多い
特に利根川流域を中心に、「古鬼怒湾」あるいは「香取の海」といわれる霞ヶ浦から印旛沼・手賀沼を含む湖沼から遡上する河川沿岸の村々ひろがる

初期の十九夜塔造立数

利根川とその支流の小貝川・手賀川・長門川・利根常陸川の流入地点が早い段階から十九夜塔普及の地域となっている

十九夜塔の関東各県別の数

栃木県	2702基
茨城県	1672基
福島県	1449基
千葉県	1175基 *
群馬県	142基
埼玉県	108基

中上敬一氏の2005年報告

* 石田年子氏の2011年の集計で
千葉県 1997基

初期の十九夜塔造立数

寛文10年(1670)まで

茨城県側

利根町	10基
伊奈町	7基
取手市	6基
藤代町	3基
鹿嶋市	3基

千葉県側

印西市	12基
佐原市	6基
印旛村	6基
我孫子	5基



(2) 初期の如意輪観音像の十九夜塔の像容と特徴

利根町の如意輪観音を主尊とした十九夜塔の初出



木像地藏菩薩立像(子育て地藏)



江戸時代地藏市の様子(利根川図志:赤松宗旦著)



茨城県利根町布川の徳満寺

最古の如意輪観音像の十九夜塔 万治元年(1658)銘

如意輪観音を線彫りした板碑型の塔

左は時(斎)念仏塔 元禄14年(1701)



(2) 初期の如意輪観音像の十九夜塔の像容と特徴

利根町の如意輪観音線彫り像板碑型の十九夜塔-1



茨城県利根町布川の徳満寺の万治元年(1658)
右手に宝珠、左手に蓮華をもつ如意輪観音を線
彫り板碑型の塔
銘文「十九夜念佛一結之施主(等)三十(余)人」
「万治元戊戌年十月十九日」



(2) 初期の如意輪観音像の十九夜塔の像容と特徴

利根町の如意輪観音線彫り像板碑型の十九夜塔-2



布川神社「十九夜」塔 万治2年(1659)
六臂如意輪観音を線彫りした板碑型の塔
「十九夜念佛一結施主／五十六人為二世安楽也／
干時万治二己亥稔／十月十九日敬白」の銘

(2) 初期の如意輪観音像の十九夜塔の像容と特徴

- ・北総の二臂如意輪観音像浮彫り光背型の十九夜塔

千葉県で最古の如意輪観音像の十九夜塔



万治3年(1660)
山武市戸田の金剛勝寺の十九夜塔
上部に弥陀三尊の種字



寛文3年(1663)
山武市松ヶ谷の勝覚寺の十九夜塔

(2) 初期の如意輪観音像の十九夜塔の像容と特徴

・北総の二臂如意輪観音像浮彫り光背型の十九夜塔-2



寛文5年(1665)
印西市小倉青年館



寛文6年1666)
印西市山田円蔵寺



寛文8年(1668)
印西市別所地藏寺

(2) 初期の如意輪観音像の十九夜塔の像容と特徴

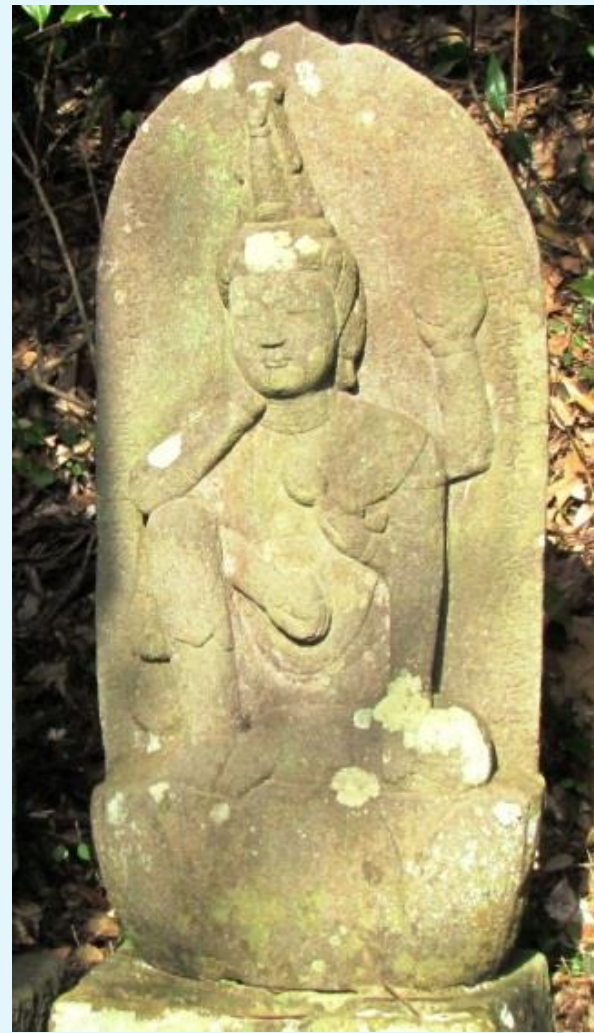
・北総の六臂如意輪観音像浮彫り光背型の十九夜塔



寛文8年(1668)
印西市大森古新田青年館



寛文8年(1668)
印西市和泉青年館



寛文8年(1668)
印西市松虫寺

(2) 初期の如意輪観音像の十九夜塔の像容と特徴

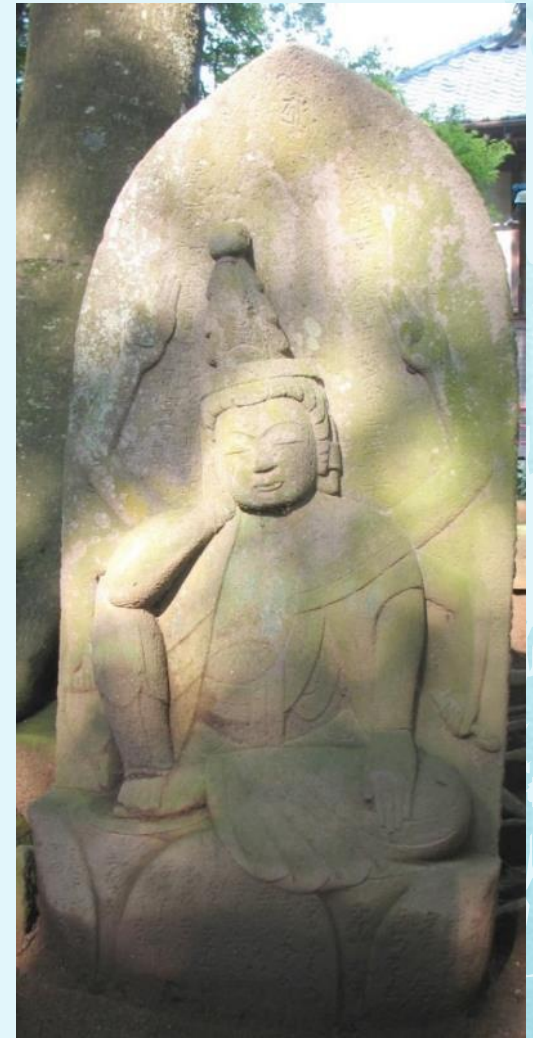
・北総の六臂如意輪観音像浮彫り光背型の十九夜塔



寛文9年(1669)
印西市中根福聚院



寛文9年(1669)
印西市小林 光明寺



寛文9年(1669)
佐倉市臼井台実蔵院

(2) 初期の如意輪観音像の十九夜塔の像容と特徴

・寛文10年～延宝8年(1680)は、六臂と二臂如意輪観音像が並立



寛文10年(1670)
白井市平塚延命寺



寛文11年(1671)
戸神青年館



寛文12年(1672)
佐倉市臼井田常楽寺

(2) 初期の如意輪観音像の十九夜塔の像容と特徴

・寛文10年～延宝8年(1680)は、六臂と二臂如意輪観音像が並立



延宝2年(1674)
八千代市高津観音寺



延宝5年(1677)
船橋市田喜野井正法寺



延宝5年(1677)
千葉市武石真蔵院

(2) 初期の如意輪観音像の十九夜塔の像容と特徴

- ・天和期(1681)以降、ほとんどが二臂如意輪観音像



天和2年(1682)
千葉市桜木町海蔵寺



貞享2年(1685)
松戸市徳蔵院



元禄5年(1692)
印西市和泉会館

(3)江戸中期の十九夜塔の特徴

- ・天衣を翻し、または未敷蓮華を持つ如意輪観音像が流行



享保8年(1723)
船橋市海神6大覚院



享保14年(1729)
佐倉市青菅正福寺



延享4年(1747)
千葉市花島観音



宝暦3年(1753)
佐倉市青菅正福寺

(3)江戸中期の十九夜塔の特徴

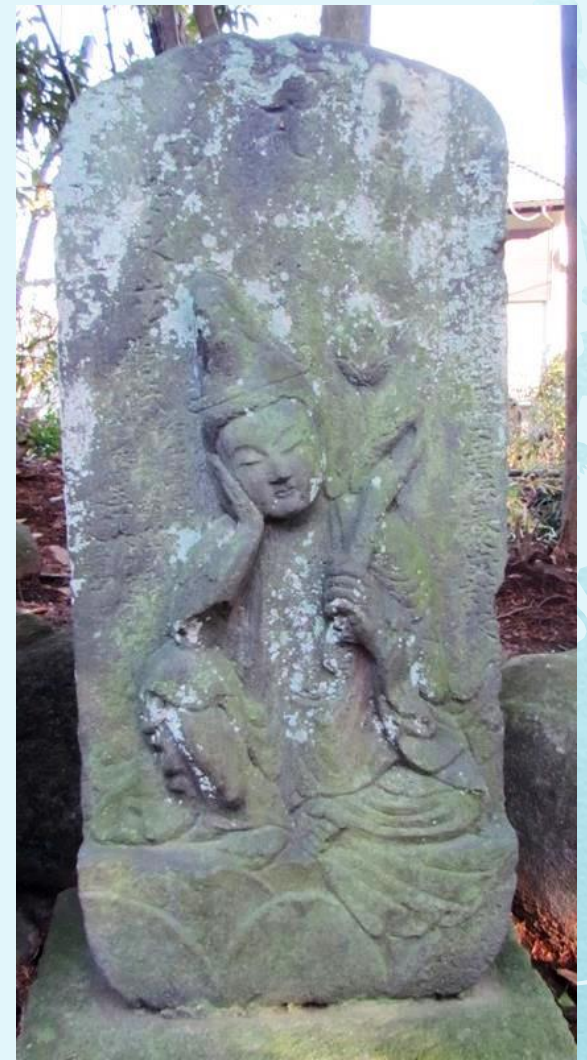
- ・天衣を翻し、または未敷蓮華を持つ如意輪観音像



延享元年(1744)
船橋市印内光明寺



明和4年(1767)
八千代市麦丸 東福院



安永6年(1777)
佐倉市臼井台実蔵院

(3) 江戸中期の十九夜塔の特徴

・子安像十九夜塔の出現



寛延4年(1751)
成田市馬乗里お堂付近



宝暦2年(1752)
成田市水掛48墓地



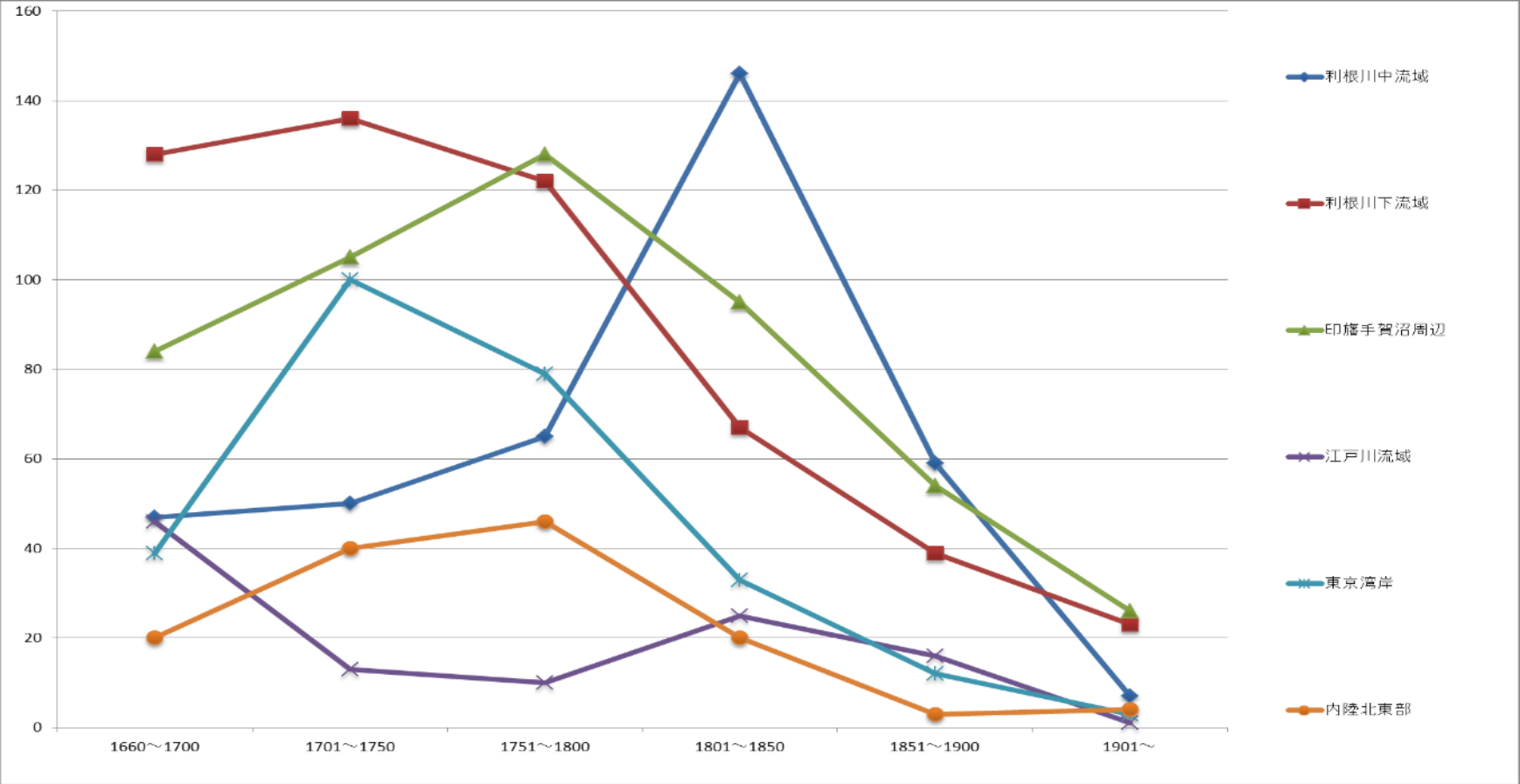
宝暦5年(1755)
印西市行徳20稲荷神社



宝暦7年(1757)
成田市船形薬師寺

西暦	利根川中流域	利根川下流域	印旛手賀沼周辺	江戸川流域	東京湾岸	内陸北東部	計
1660～1700	47	128	84	46	39	20	364
1701～1750	50	136	105	13	100	40	444
1751～1800	65	122	128	10	79	46	450
1801～1850	146	67	95	25	33	20	386
1851～1900	59	39	54	16	12	3	183
1901～	7	23	26	1	3	4	64
不明	9	41	24	5	18	9	106
合計	383	556	516	116	284	142	1997

エリア	市町村名						
利根川中流域	野田	柏	我孫子				
利根川下流域	印西	栄町	成田	佐原	東庄	小見川	
印旛手賀沼周辺	沼南	鎌ヶ谷	白井	八千代	佐倉	酒々井	印旛 本埜
江戸川流域	市川	松戸	流山				
東京湾岸	船橋	習志野	千葉				
内陸北東部	四街道	富里	大栄	山田	八日市場		



Ⅱ 子安信仰石造物の系譜

子安像塔の十九夜塔から子安塔へ

宝暦五年(1755)行徳稲荷神社の「十九夜念仏講」造立の十九夜塔の主尊は、思惟相が如意輪観音の**赤子を抱く子安像**となり、その後は、子安像塔へと次第に置き換わっていきます。

そして、江戸中期までの十九夜塔に替わって、北総の女人信仰の石塔は江戸時代後期から徐々に、そして近代以降現代まで、そのほとんどが「子安観音」や「子安明神」の主尊を子安像として浮き彫りした**子安塔**となります。

江戸時代のはじめ、二世安樂を念誦する念仏講から 女人成仏を如意輪観音に祈願する**十九夜講**へ発展した女人講は、さらに、江戸後期からムラのお嫁さんが 安産子育てのご利益と親睦を目的に集う**子安講**へ変わっていきます。

宝暦5年(1755)行徳 稲荷神社



(1) 子安神の原初的な祀り

・子授かり・安産・子育ての子安神を祀る石祠(神銘・年銘の残る石祠はまれ)



元禄16年(1703)
八千代市上高野子安神社
「子安大明神」銘石祠



享保17年(1732)
八日市場高 宝性院
「子安宮」石祠

(2)「子安神」像の出現

元禄4年(1691)袖ヶ浦市百目木子安神社
「子安大明神」石祠(千葉県最古の子安像・二児像)



(2)「子安神」像の出現



享保 18年(1733)銘 女神立像
酒々井町尾上住吉神社



元文5年(1740) 丸彫子安像(二児像)入りの石祠
酒々井町柏木新光寺跡墓地



(2)「子安神」像の出現



延享元年(1744)
酒々井町下岩橋 大仏頂寺



明和 7年 (1770)
酒々井町伊篠 白幡神社



天明3年(1783)
佐倉市大佐倉 麻賀多神社

(3)「子安観音」の成立

・如来・菩薩・神像風の子安像塔



元文5年(1740)
栄町西新田 霊園(慈眼院跡)
「子安観音」
(大日如来風の子安像)



延享2(1745)
銚子市高神東町 賢徳寺
「子安観音講中」
(唐様装束の女神像)

(3)「子安観音」の成立

・二児を抱く子安像



明和元年(1764)
成田市高・台十字路
「十三夜・十七夜・十九夜」



安永3年(1774)
栄町 南集会所
「子安供養塔」



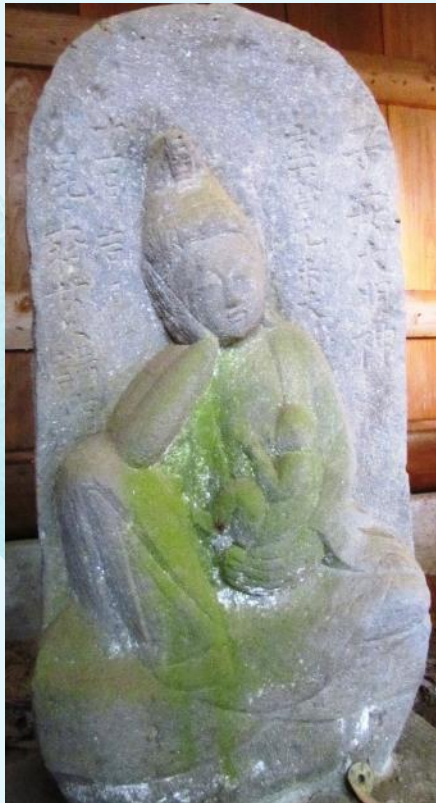
安永5年(1776)
印西市滝瀧水寺
「子安観世音」



安永8年(1779)
栄町押付 善勝庵
「十九夜」

(3)「子安観音」の成立

・如意輪観音風の思惟相の子安像



宝暦元年(1751)
酒々井町尾上 住吉神社
「子安大明神」



宝暦4年(1754)
酒々井町酒々井朝日神社
「子安講中」(二児像)



明和元年(1764)
印西市平賀不動堂
「念仏講中善女」



明和元年(1764)
印西市平賀観音堂
「女講中」

(3)「子安観音」の成立

・子を抱く思惟相の像

天明3年(1783)
成田市飯仲住吉神社



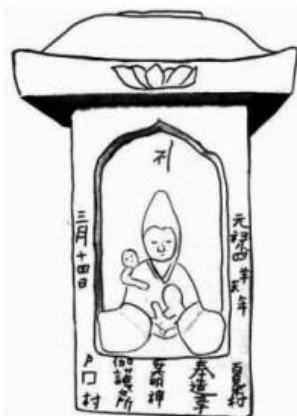
宝暦12年(1762)
成田市松崎 富宮神社



安永5年(1776)
酒々井町酒々井新堀



千葉県の出現期の子安像塔



袖ヶ浦市
百目木子安神社
元禄4年（1691）



酒々井町
柏木 新光寺墓地
元文5年（1740）



酒々井町
下岩橋 大仏頂寺
延享元年（1744）



酒々井町
伊篠 白幡神社
明和7年（1770）



香取市
虫幡日向山薬師堂
元文5年（1741）



栄町
西新田霊園
元文5年（1741）



酒々井町
尾上住吉神社
宝暦元年（1751）



酒々井町
酒々井朝日神社
宝暦4年（1754）

(4)江戸中期後葉(安永～享和)の多様な子安像塔



安永5年(1776)
千葉市桜木霊園
「十九夜講中」(天衣を纏う)

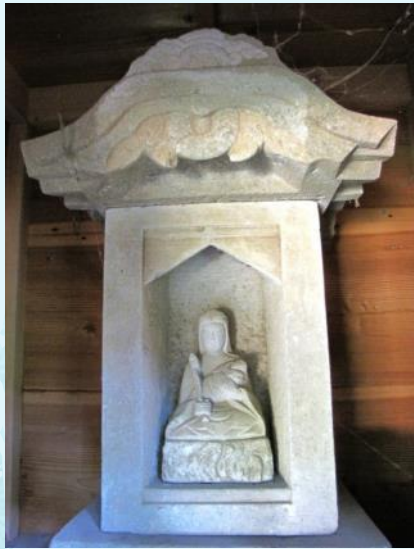


天明6年(1786)
小見川外浜須賀神社
(未敷蓮華を持つ)



天明6年(1786)
千葉市旦谷町公民館
(小さな未敷蓮華を持つ)

(5) 江戸後期(文化期1804～)から子安像塔最盛期への展開



文化3年(1806)
印西市宮内
鳥見神社
(石祠)



天保3年(1832)
銚子市名洗町
不動尊



天保11年(1840)
八千代市島田台
長唱寺



天保14年(1843)
鎌ヶ谷市鎌ヶ谷
八幡神社

文化8年(1811)
佐倉市角来八幡神社
(白衣観音系立像)

(5) 近代～現代の子安像塔



明治33年(1900)
船橋市金堀町 竜蔵院

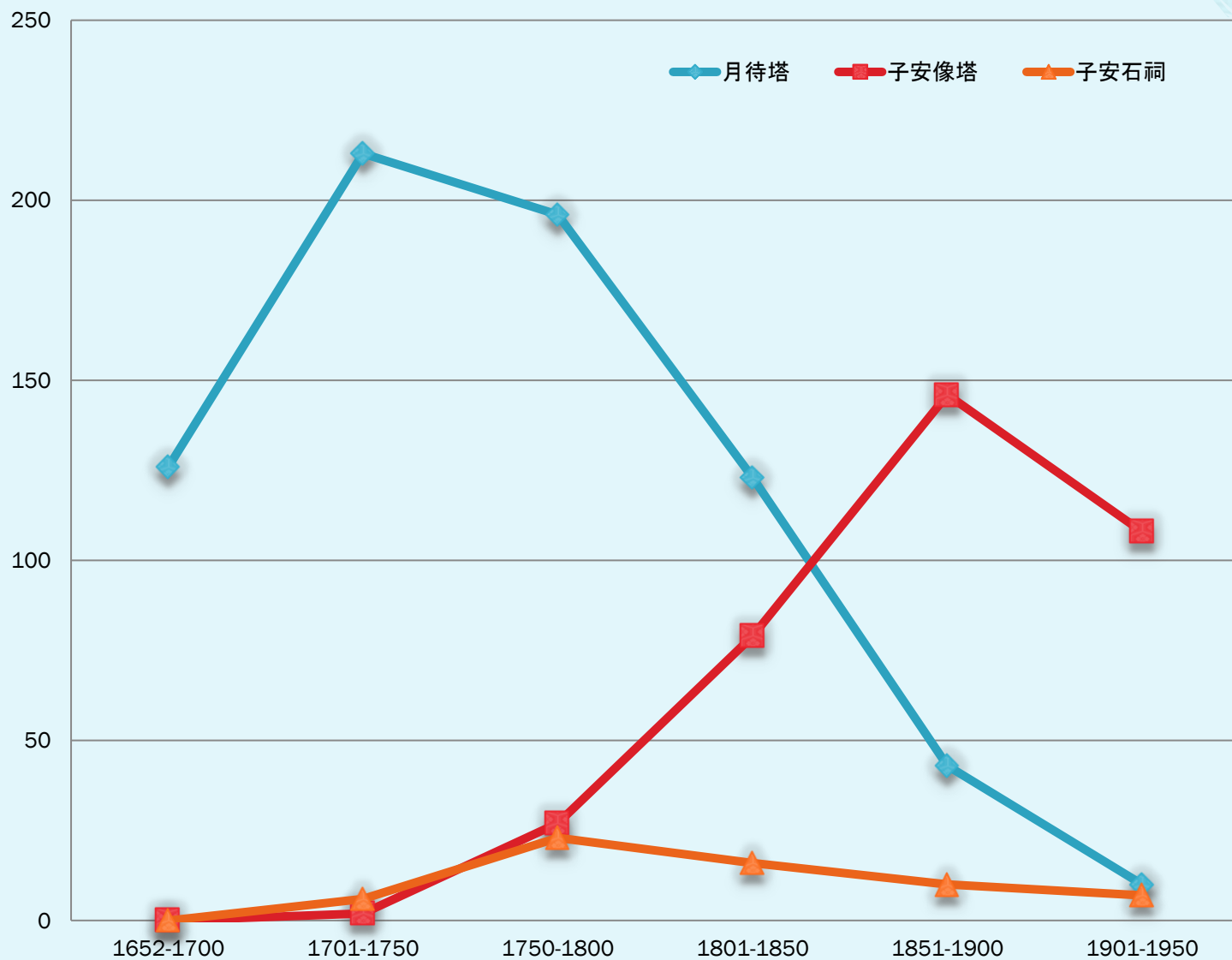


大正14年(1925) 印西市松虫寺
「布佐町／石工 大塚兼吉刻」の銘



令和3年(2021)
八千代市勝田円福寺

10市町村の女人信仰の石塔合計数(年代別)



印旛沼周辺10市町村の女人信仰関連石造物の推移

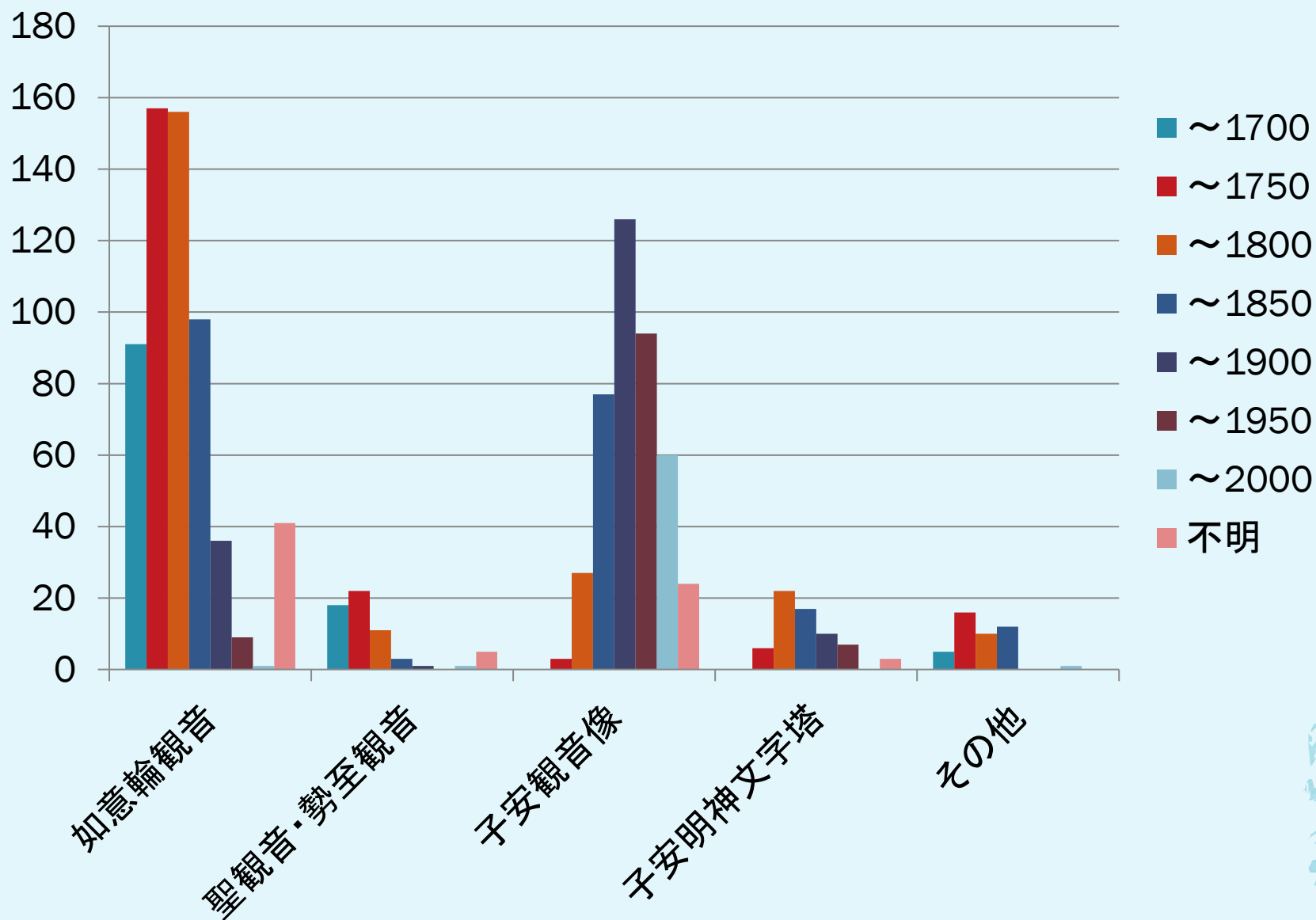
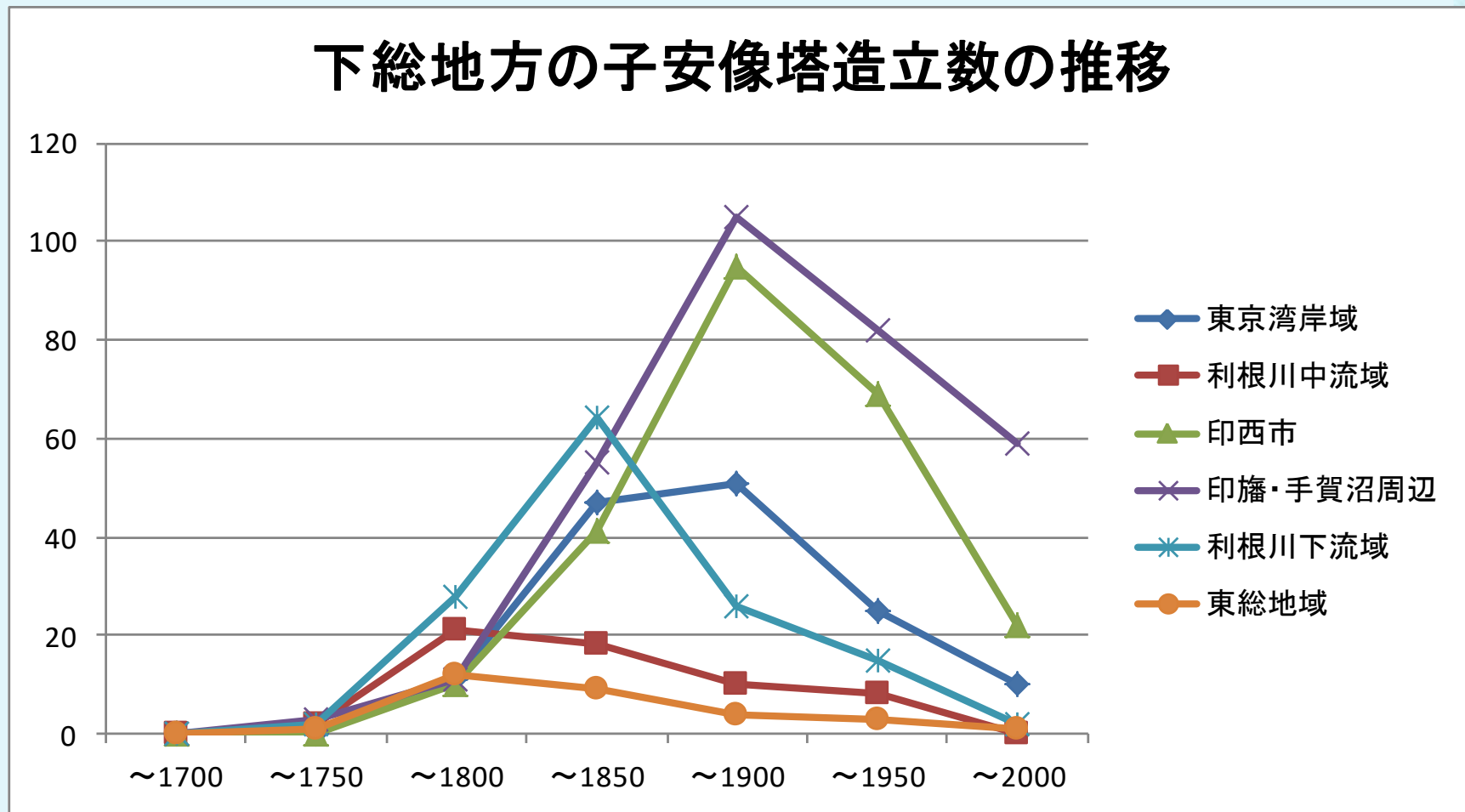


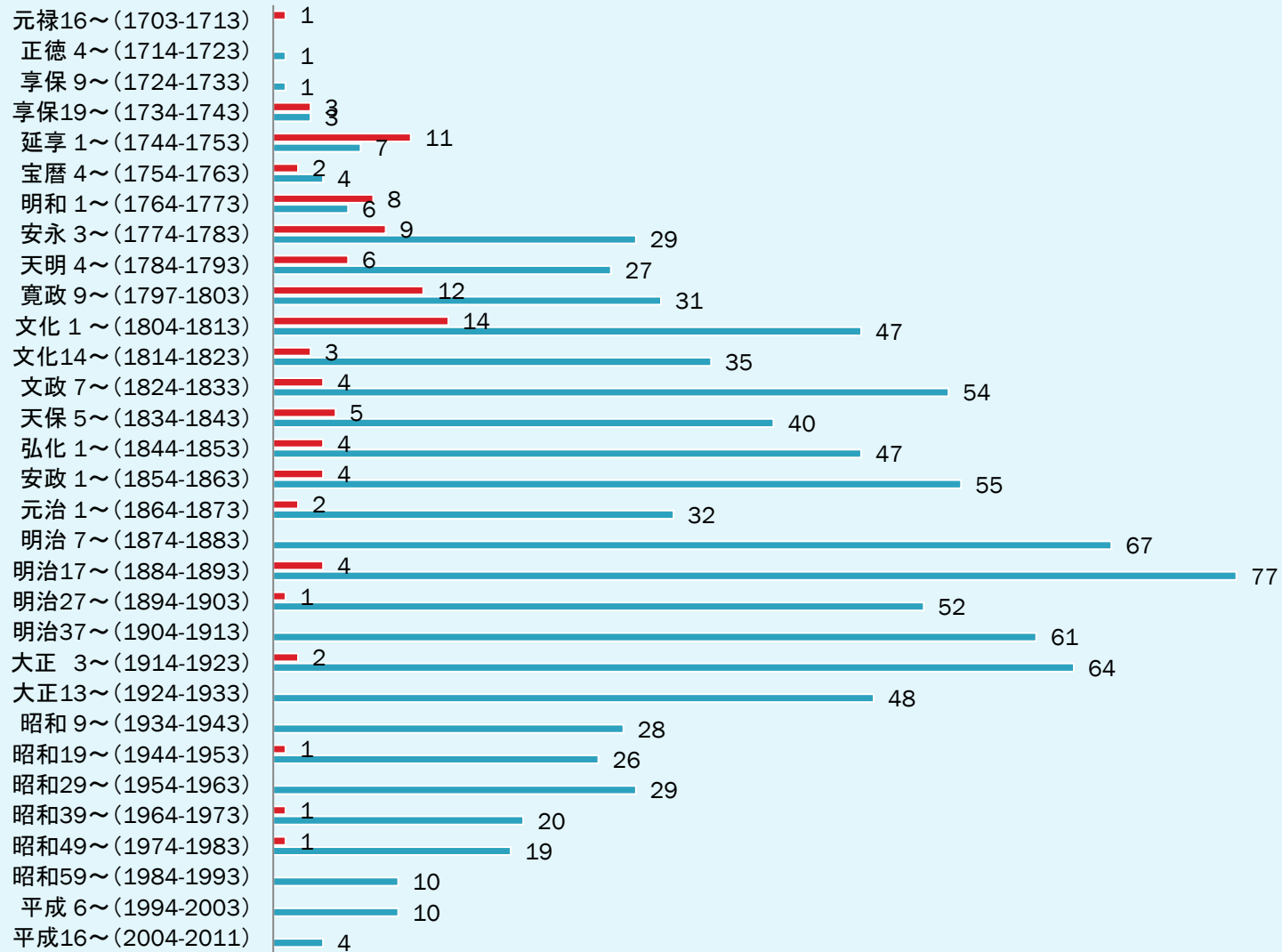
図3 下総地方の子安像塔造立数の推移



北総の子安像塔数の推移

■ 文字のみの子安石塔・石祠

■ 子安像塔数(墓標仏を含む)



まとめ

1. 如意輪観音は女人成仏の主尊として女人講の石仏「十九夜塔」として、江戸前中期に興隆した。
下総地方の十九夜塔総数は2300基(2014石田年子『房総の石仏』24号)にのぼる。
2. 江戸中期から子安像塔が出現し、如意輪観音像塔にとって代わり、幕末から現在まで女人講石塔の主流となった。
その数は下総地方で1039基(2015蔵由美『印西の歴史』8号)を数える。
3. 子安像塔成立には、古来の子安神信仰がベースとなった。
神仏習合の民間信仰により、如意輪観音系の造像も見られる。



ご清聴ありがとうございました